

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	おおきな木深江橋			
○保護者評価実施期間	令和7年3月1日 ～ 令和7年3月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数)	8名
○従業者評価実施期間	令和7年3月1日 ～ 令和7年3月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎日プログラムがある	SST、ワーキングメモリー、アート体験、運動、クッキングなどのプログラムをカレンダーにして児童や保護者様に分かりやすく見える化にしている。	子どもたち同士で考えてプログラムを何をするのか考えて行なうプログラムもある。
2	体育館に行く外出イベントもある	長期休暇や土曜日に体育館に行き、トランポリンやドッチボール、一輪車、バスケ、鬼ごっこなど沢山身体を動かすことを取り入れている。	広いスペースや遊具を安全に使用できるように心掛けている。 さらに遊具やボールなどを児童が施設のスタッフに直接『貸してください』と伝える事も取り入れている。
3	毎月第二土曜日に子ども食堂のイベントを開催 利用児童は子ども店長もできる	お皿やスプーンなど自分で用意をする。 食べたお皿は自らお片付けをします。	イベント開催の際は子ども店長で職業体験ができる

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	新規利用児童の受け入れは調整が必要	ありがたいことに多くの新規申し込みの連絡があり、固定曜日のご希望が難しい場合があります。 年度や時期に寄りますが、空き枠があれば固定利用は可能です。	新規利用希望の方については、待機契約で登録していただき、空き枠があれば順番に連絡していきます。
2	書類作成はエクセルやワードなどのパソコンでのツールが多い。	タブレットなどのできるだけ簡単に書類関係を管理できるように工夫が必要と考えられる。	業務効率化は図ると同時に、その時間を療育に充てていきたい。
3	地域の子どもたちや近隣住民の方たちとの交流が必要	交流に目的や目標をしっかりと設定し、児童の特性に十分配慮した交流の機会を提供することも重要と考えられる。 コミュニケーションと場として必要である。	児童に必要な交流の機会は同世代だけでなく、様々な世代の地域の方々との交流が大切だと考えられる。一緒に活動することで楽しく取り組みコミュニケーションの場を広げていくことが大事と考えております。